

平成 25 年度 (2013 年度) 事業報告

本財団で行っている事業及び研究

医師等に対する精神分析及精神分析療法に関する研究事業として、通年セミナー8件、ワークショップ1件、単発セミナー4件、海外講師によるセミナー3件及び財団設立20周年・小此木啓吾先生没後10年記念学術集会1件、研究事業1件、出版事業1件を実施した。

I. 研修事業

1. 通年セミナー

(1) 小寺精神分析研究セミナー (第19期)

テ ー マ : 「Narcissism Now」

目 的 : 1995年に小寺セミナーを始めてから、どのテーマの場合でも Narcissism の問題は、BGM のようにあるいはむしろそれが主題のように話題になってきました。しかし、それがテーマとして取り上げられたことは一度もなかったのです。ひきこもり、自分探し、虐待と暴力、トラウマ、性倒錯、今どきの「うつ」、「発達障害」をめぐる問題、パッチワークのような現代日本の家族構造と社会構造、といった現象はまさに「Narcissism Now」といった現象でしょう。これについて精神分析家はどのように発言するのか。大変興味深い試みである。これが今年度の目的である。

対 象 : 精神分析の指導者および臨床家の養成のため、精神分析セミナー、精神分析的臨床セミナーの受講生、卒業生及びこの基準に準じた臨床家の方。

開催期間 : 平成 25 年(2013 年)5 月～平成 26 年(2014 年)3 月、月 1 回

第 3 土曜日原則、午後 6 時 30 分～9 時、全 10 回

開催場所 : 津田ホール

参加人数 : 129 名

運営方法 : 原則毎回講師 1 名、指定討論者 1 名をお願いし司会は狩野力八郎が担当 (6 月以降は討論者が担当)

担 当 : 狩野力八郎

日 時	講 師	テ ー マ	討 論 者
5 月 18 日	狩野力八郎	スキゾイドとナルシズム	岡田暁宜 貞安 元
6 月 15 日	北山 修	自己愛の幻滅～実現の「難しさ」	中村留貴子
7 月 20 日	妙木 浩之	自己愛と万能感	奥寺 崇
9 月 21 日	松木 邦裕	生きることと Narcissism	生地 新
10 月 19 日	古賀 靖彦	クライン派の Narcissism	相田信男
11 月 9 日	福本 修	さまざまな精神病理とナルシズム	森 さち子
12 月 21 日	丸田 俊彦	“Maturation Morality”を越えて	菊地 孝則
1 月 18 日	木部 則雄	自閉症スペクトラム障害と自己愛	小川 豊昭
2 月 15 日	藤山 直樹	ナルシズムと心的死	白波瀬丈一郎
3 月 15 日	岡野憲一郎	「獲得する病理」としての自己愛パーソナリティ障害	高野 晶

(2) 体験グループセミナー (第19期)

目的：精神分析、力動的精神療法の方向付けを基本とした、グループダイナミクスの学習、自己理解の深化を、ワークショップ形式のグループ体験を通して得る機会の提供を目的とする。

対象：精神分析セミナー、精神分析的心理臨床セミナー、ならびにそれに相当するセミナーの受講者、

修了者ですでに精神療法の経験をもつことを優先する。

原則として2年目の参加者優先

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：平成25年(2013年)5月～平成26年(2014年)3月、月1回

第4金曜日原則、午後7時～8時30分、全10回

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：26名

担当：相田信男

(3) グループ理論研究セミナー (第18期)

目的：精神分析、力動的医学を基礎におく集団精神療法の臨床家または指導者の養成を理論的学習、事例をめぐるスーパービジョンを通して達成することを目的とする。

対象：何らかの臨床グループあるいはトレーニング・グループなど、実際グループに参加した経験のある方、あるいは参加の方で、事例提供が可能な方を原則とする。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：平成25年(2013年)5月～平成26年(2014年)3月、月1回

第2土曜日、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：41名

担当：相田信男

(4) 力動的家族療法セミナー (第11期)

対象：個人精神療法に関する何らかの研修(セミナーあるいはスーパービジョンなど)を受けているか、受けたことのある方。大学院生も受講可。

講師：中村伸一・狩野力八郎・野末武義・岩井昌也・萬歳芙美子・荻野ひろみ

開催期間：平成25年(2013年)6月～平成26年(2014年)3月、月1回

第4土曜日、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：15名

担当：狩野力八郎

(5) 小寺臨床講読セミナー

—現代クライン派の系統的理解（第Ⅲ期）：1．基本概念と展開—

目的：2013 年度より新たに、第Ⅲ期講読セミナーを開講します。メラニー・クラインは、現代の精神分析の重要な源泉の一つであり、優れた直観と観察に基づいて多くの独創的な見解を展開しました。しかし原著は、十分に背景を知らずに読んでも理解し難いことも事実です。そこで今期は、初めて触れる方にとっても改めて取り組む方にとっても理解を深められるように、クライン自身の論文とともに、時代と人物を伝える解説や現代クライン派の論文を幅広く多く取り上げます。邦訳のある文献も多く含めて、初学者の方が参加しやすいようにしました。

対象：テキストを読んで毎回参加できる方。年に何回かレジュメ作成・発表を担当。

講師：福本 修・平井正三

開催期間：平成 25 年（2013 年）4 月以降の第 2 金曜、午後 7 時～10、全 12 回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：23 名

担当：福本 修

(6) 小寺臨床講読ワークショップ

—フロイトの系統的理解（第Ⅲ期）：2．精神分析の完成期（1911－1920）—

目的：本ワークショップは、参加時間の中でフロイト読解を体験して、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指します。フロイトの著作は今も基本であり、発想の源泉です。しかし系統的に読み進めるのは、容易ではありません。特に黎明期の精神分析は、19 世紀の科学用語を引き継ぎ、臨床設定を定めていく途上にあるので、個人的に読んで往時を追体験することは案外困難です。

2013 年度は、古典的完成期に入ったフロイトによる技法論とメタ心理学論文を中心に、多くの掌編と、そこに含まれている興味深い概念を取り上げます。同時に、臨場感ある現代論文を参照します。その多くには邦訳があります。フロイト文献を本格的に読み始めるに好適な、1910 年代が主題です。

対象：テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問題ではない。

講師：福本 修（余裕があれば時にゲスト講師）

開催期間：平成 25 年（2013 年）4 月以降の第三金曜、午後 7 時～10 時、全 1 2 回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：18 名

担当：福本 修

(7) 精神分析的心理療法セミナー（第 4 回）

目的：精神分析的な心理療法についての事例検討と研究を目的とする。原則として、ある程度の臨床経験と、個人スーパービジョンを中心とする研修経験をすでに持っており、事例報告ができる臨床心理士を対象とする。精神分析学会認定資格の取得を目指すことが望ましい。また、年に数回、外部からの講師もお迎えして助言をお願いする。経験を積んだ臨床心理士の参加を歓迎する。

対 象：精神分析の基礎講義を修了し、個人スーパービジョンの経験を持つ臨床心理士
講 師：中村留貴子・狩野力八郎・深津千賀子・藤山直樹・福本修・妙木浩之
開催期間：平成 25 年（2013 年）4 月～平成 26 年（2014 年）3 月
原則として、第一金曜日、午後 7 時 30 分～10 時、全 10 回
開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム及び小会議室
参加人数：9 名
担 当：中村留貴子・狩野力八郎

(8) 「臨床家のための、産業メンタルヘルス・セミナー」(第 2 回)

開催日時：毎月原則として第 4 日曜日 13:00～17:30
年 10 回（2013 年度は 6 月から 3 月までの 10 回）

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム/慶応義塾大学ストレス研究センター

参加対象：臨床心理士

講 師：白波瀬丈一郎・辻廣享子・三柴丈典・秋山義之・平島奈津子・乾 吉佑・牧野 純

参加人数：14 名

担 当：白波瀬丈一郎

2. 単発セミナー

(1) 第 27 回精神療法セミナー

目 的：自己心理学に基礎づけられた精神療法について講義と症例検討を用い教育する。比較的
小規模で濃密な討論を目標とする。

開催日時：平成 26 年（2014 年）3 月 21 日（祝・金）

講 師：丸田俊彦・狩野力八郎・森さち子

発 表：小野田暁子・住山眞由美・志村優子

開催場所：ホテル J A L シティ 四谷 2 階

参加人数：56 名

担 当：丸田俊彦

(2) 精神分析—医学生・研修医セミナー

目 的：医学生を中心に、精神分析の世界を概観する機会を提供し、その魅力を伝え、さらに精神分
析的臨床家との交流を通して、精神分析の世界への関心を高めること。

開催日時：平成 25 年（2013 年）7 月 14 日（日）・15 日（月・祝）

開催場所：小寺記念精神分析研究財団 セミナールーム

講 師：北山修・白波瀬丈一郎・高野晶・藤山直樹・池田暁史・奥寺崇・皆川英明

参加対象：医学生（5 年生、6 年生を中心に）、および研修医（初期研修医を中心に）

参加人数：19 名

内 容：レクチャーおよび分析家オフィス見学ツアー

担 当：菊地孝則・高野 晶

(3) 関係精神療法セミナー「動機づけシステムと治療作用論」(第3回)

開催日時：平成25年(2013年)7月21日(日)午前10時～午後3時

開催場所：津田ホール101・102会議室

参加対象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

発表者：富樫 公一(広島国際大学大学院実践臨床心理学専攻)

吾妻 壮(大阪大学精神科)

岡野憲一郎(国際医療福祉大学)

司 会：岡野憲一郎

参加人数：22名

担 当：岡野憲一郎

(4) 『青年期の精神分析的な心理療法—英国タヴィストック・モデル』(第3回)

開催日時：平成25年(2013年)12月23日(祝・月)午後1時～5時

開催場所：津田ホール101・102会議室

参加対象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方(臨床経験の多寡は問いません)

講 師：飛谷 渉(大阪教育大学保健センター)

司 会：木部則雄、福本 修

討 論：小倉 清、木部則雄

参加人数：63名

担 当：福本 修

(5) 海外の講師によるセミナー(3件)

① 『Master Class Clinical Seminar—Naomi Shavit 先生をお迎えして—』

開催日時：平成25年(2013年)4月2日(火)午後7時～9時半

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加対象：日本精神分析協会インスティテュート東京支部所属の方、および小寺財団セミナー講師の方々

講 師：Naomi Shavit(英国精神分析協会・訓練分析家)

通 訳：福本修

参加人数：8名

担 当：福本修

共 催：日本精神分析協会インスティテュート東京支部

② 『誰も死んでいない！青年期におけるトラウマ』—カタリーナ・ブロンスタイン先生講演—

開催日時：平成25年(2013年)6月24日(月)午後7時～9時15分

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加対象：精神分析に興味があり、臨床を行っている方(経験の多寡は問わず)

講 師：Catalina Bronstein(英国精神分析協会)

通 訳：福本修

参加人数：30名

担 当：福本修

共 催：日本精神分析協会インスティテュート東京支部

③ 『21 世紀における精神分析と同性愛』—アメリカ人同性愛精神分析者の見解

—ゲリー・グロスマン先生講演会—

開催日時：平成 25 年（2013 年）11 月 25 日（月） 午後 7 時～9 時 15 分

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加対象：精神分析に関心があり、臨床を行っている方（経験の多寡は問わず）

講師：Gary Grossman（APA,IPA 所属の精神分析家）

通訳：福本修

参加人数：15 名

担当：福本修

共催：日本精神分析協会インスティテュート東京支部

(6) 小寺記念精神分析研究財団設立 20 周年・小此木啓吾先生没後 10 年記念学術集会

目的：精神分析は、実践すればするほど、人間と社会の真実について新たなフロンティアを明らかにします。そこには安易な結論や懐疑なきマニュアルを許さない、しかしそれだけに好奇心でわくわくするような何かがあります。このような思想で本財団は、20 年の間、精神分析の進化を促進するために活動してきました。そもそも、この基本的な思想を形あるものとして実践してこられたのは初代理事長小此木啓吾先生です。その小此木先生が亡くなられてはや 10 年たちます。先生は、何か行事をするとき、たんに形式的行事だけでなく必ず学術的集会を開催されました。先生の福沢諭吉への深い同一化は、このような形で表現されていたといえます。まさに「学問のすすめ」そして「精神分析のすすめ」なのです。このような趣旨で学術集会を開催します。

開催日時：平成 26 年 2 月 11 日（祝・火）午前 10 時～午後 5 時半

開催場所：明治記念館 2 階富士の間 1

参加人数：251 名

総合司会：相田信男

I. 理事長挨拶と財団設立の経緯 狩野力八郎

II.

1) 特別講演① 『こどもの心と大人の心』

講師：小倉清 司会：丸田俊彦

2) 特別講演② 『集団精神療法と精神分析—小寺財団で学んだことを巡って』

講師：鈴木純一 司会：白波瀬丈一郎

3) 特別講演③ 『家族療法と精神分析』

講師：中村伸一 司会：乾 吉佑

4) シンポジウム 『はじめること、つづけること

—小此木啓吾の時代と現在の精神分析—を語る』

目的：現代における精神分析の課題は何か、そして精神分析の存在意義は何かを論じることを目的にしています。

「やや逆説的な言い方ではあるが、本事典が可能になったのは、和をもって尊しとなす日本の風土による面がある。それだけに、さらにこれからの段階における日本の精神分析は、もしかしたら、この事典を基盤にしながらも、

さらに「和」を「輪」とみなして自らを解き放ち、それぞれの学派と個性がもっと自由に積極的に発揮される時代を迎えるのでは？刊行にあたってそんな感慨をひそかに抱いている」小此木先生は、2002年1月精神分析事典の序においてこのように時代を予感しています。

この鋭い着想に活性化されて今回のシンポジウムのテーマが生まれたともいえます。ですから、このテーマは、あの1950年代から2003年に至る小此木啓吾先生が演出した精神分析の時代が、現代において何を生み出したのかということ論じることでもあります。つまり、「はじめること、つづけること」というテーマは、生み出すこと、生成すること、進化すること、展開すること、新生することといった意味を含みこんでいるわけです。

シンポジスト：松木邦裕・藤山直樹・福本修・岡野憲一郎
司 会：北山修・妙木浩之

II. 研究事業

精神分析学研究

目 的：精神分析療法および精神分析的な精神療法における治療機序を明らかにする。

開催日時：平成25年(2013年)4月～平成26年(2014年)3月、月1回、
土曜日午前9時～午後5時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：10名

研究概要：精神分析療法および精神分析的な精神療法のプロセスを詳細に分析し変化のプロセスとメカニズムを解明する。そのため、構造化された精神分析療法および精神分析的な精神療法の症例を用い、ひとつひとつのセッションを複数の研究者から詳細に解析し、検討する。

担 当：狩野力八郎

III 出版事業

20周年記念誌を刊行した。

小寺セミナーなどにおける講義を本財団として出版する案について討議する

担 当：福本 修

